

令和6年度

オホーツクの森林 国有林へようこそ



林野庁 北海道森林管理局
網走中部森林管理署

管理経営の重点は**公益的機能の維持増進**です

網走中部森林管理署の管理区域は、三国山を源とする常呂川流域及び佐呂間別川流域となっており、面積が北海道最大（全国でも4番目）の都市である北見市（平成18年3月に北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町が合併）、佐呂間町、置戸町にまたがる1市2町に約11万haの国有林（人工林約37,000ha（35%）、天然林約67,000ha（65%））があり、これを管轄しています。

当署が管理している国有林の81%は水資源（飲料水など）の機能を重点的に発揮させるための水源涵養タイプ、16%は山崩れや土砂の流出を抑えるための山地災害防止タイプ、2%は山地の展望台や景勝地を含み、皆さんに利用してもらうための森林空間利用タイプ、1%は多様な生物の保護や保全するための自然維持タイプに区分し、国民の皆さんの生活を支える公益的機能の発揮を重点とした管理経営を行っています。



重点的に発揮させる機能に応じた 森林の管理経営に努めています

国有林では国土の保全や水資源のかん養、環境の保全などの公益的機能維持増進を重視した管理経営を推進しています。

このため、公益的機能の維持増進と民有林と連携した森林の整備・保全の取組を一層推進するため「公益的機能別施業森林」として森林を重点的に発揮させる機能によって5機能に区分し、それぞれの区分に応じて機能の維持増進を図ることに努めています。

《機能類型別面積》

機能類型	山地災害防止タイプ	水源涵養タイプ	自然維持タイプ	森林空間利用タイプ	快適環境形成タイプ	合計
面積(比率)	16,832ha (16%)	86,708ha (81%)	1,082ha (1%)	2,712ha (2%)	-	107,334ha

注) 機能類型別国有林野面積は、国有林野の管理経営に関する法律第2条に規定する国有林野を対象に区分されているため、P8の森林面積とは一致しない。

山地災害防止タイプ	水源涵養タイプ	自然維持タイプ	森林空間利用タイプ
 <p>水土保全機能の向上を図るため、適切な密度管理を行い下層植生の発達を促進させるとともに、必要に応じて土砂の流出、崩壊を防止する治山施設を整備しています。</p>	 <p>管内の人工林では、水源かん養などにも考慮し、伐期の長期化や広葉樹の導入による複層林への誘導を図るなど、適切な保育・間伐等を行っています。</p>	 <p>原生的な森林生態系や希少な生物の生育・生息に適した森林を保護林に指定するなど、その保護・保全に努めています。</p>	 <p>鹿の子ダム(おけと湖)の周囲の国有林では、広大な緑の山峡の青い湖と、湖面周辺の眺望の良い森林美が広がり、森林浴やレクリエーションの場を提供しています。</p>

【国有林野の公益的利用】

《保安林・自然公園等面積》

(単位：ha)

保安林計	水源かん養林	土砂流出防備林	その他	自然公園		史跡名勝天然記念物	鳥獣保護区特別保護地区	レクリエーションの森
				網走国定公園				
105,111	84,161	15,759	5,191	1,018		73	435	2,474

公益的機能の維持増進を 図るための取組を推進しています

保安林の整備

土砂の流出、崩壊の防備や水源のかん養が特に求められる森林は「**保安林**」に指定し、良好な森林に整備しています。

管内の国有林は全体の約 98%が保安林に指定されています。保安林では、それぞれの指定目的や森林の機能がより高度に発揮されるよう森林の整備を行うとともに、崩壊地を復旧して森林を回復させ、山地災害を防止するための施設等を整備する「**治山事業**」を実施しています。



○床固工（北見市留辺蘂）



○保健保安林（置戸町 鹿の子沢）

保護林の指定

国有林では、貴重な野生動植物が生息・生育する森林などを**保護林**に指定し、その保護・保全に努めています。

管内の国有林には「端野シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林」他遺伝資源希少個体群保護林 10 種及び「置戸アカエゾマツ希少個体群保護林」の保護林合計 193ha があり、保護・保全が図られています。



○シラカンバ等遺伝資源希少個体群保護林 2288 林班
[北見市端野]



○置戸アカエゾマツ希少個体群保護林 39 林班
[置戸町]

開かれた国有林で 国民参加の森林づくりを進めています

国有林野の多様で豊かな自然環境、森林・林業に関する知識と経験を備えた人材等を活用し、森林環境教育の推進、森林とのふれあいや国民参加の森林づくり等、昨今の国民の要請に応えるため、フィールドの提供や必要な技術指導を行うなど国民による国有林野の積極的な利用を推進しています。

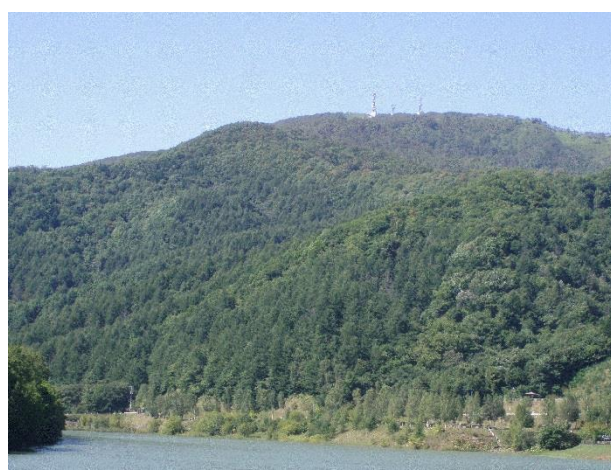
また、自ら森林づくりを体験したい、森林づくりを通じて社会貢献をしたい、森林の役割を学ぶ森林教室を行いたいなどのニーズに応えるため、このような活動を行おうとする民間団体等が継続的に国有林を活用できる「協定締結による国民参加の森林づくり」を推進しています。

活動内容により、「ふれあいの森、社会貢献の森、木の文化を支える森、遊々の森、多様な活動の森、モデルプロジェクトの森」の種類があり、網走中部森林管理署では、下記の協定締結による国民参加の森林づくりを行っています。

区分	場所	面積	内容
ふれあいの森	北見市端野町緋牛内 2286、2288 林班	1.94ha	協定者：森林ボランティア「オホーツクの会」 自主的な森林整備活動を目的とした森林整備や森林観察等の活動を通じた親睦・交流を図る場として活用。
多様な活動の森	北見市富里 2249、2250、2252 林班	88.90ha	協定者：仁頃山愛好会 森林の保全を目的とした仁頃山登山道及び山頂周辺における登山安全パトロール等の活動の円滑な実施。



○「ふれあいの森」にある展望台



○「多様な活動の森」北見市仁頃山

国民参加の森林づくり

地元市町との共催による植樹祭等を行うとともに、地元の小学校及び認定こども園等を対象とした森林体験・森林教室などを行い、森林とふれあう機会を提供し、森林づくりへの参加と森林・林業への理解を深めるための活動を行っています。写真は令和4年9月に実施した「鹿の子沢風景林ハイキング」、令和6年度は「認定こども園 置戸町こどもセンターどんぐり」園児の皆さんとの自然体験を予定しています。

置戸町 ふるさと少年クラブ 「鹿の子沢風景林ハイキング」

令和4年9月10日



置戸町教育委員会主催の「ふるさと少年クラブ 鹿の子沢風景林ハイキング」に、網走中部森林管理署から職員が講師として参加。鹿の子沢遊歩道を歩きながら樹木や草花の説明を行い、地元置戸町の雄大な自然を堪能してもらいました。

森林と人との ふれあいの場を提供しています

レクリエーションの森

人と森林とのふれあいの場を提供するため、自然の美しさを楽しむことができる自然休養林や風景林などのレクリエーションの森を設定し、森林とのふれあい環境を整備しています。

管内には「サロマ湖畔自然休養林」や「鹿の子沢風景林」「おけと湖風致探勝林」の3カ所、2,474haのレクリエーションの森があり、皆さんに親しまれています。



○ サロマ湖畔自然休養林〔佐呂間町〕



○ おけと湖風致探勝林〔置戸町〕

日本美しの森 お薦め国有林

置戸町の「鹿の子沢風景林」は、優れた自然景観を有し、観光資源としての潜在的魅力が認識されるレクリエーションの森として「日本美しの森 お薦め国有林」に選定されています。

日本美しの森 お薦め国有林

人は、生き物は、森に育まれ、森に守られて暮らしてきました。
 現象にも通なる樹々の緑とふれあい、
 自然の息吹を感じるとき、
 きっと私たちの心には、新たな生命力が芽吹いてくるはずです。
 日本の国土の70%は、美しく豊かな森林に覆われています。
 林野庁では、みなさまに広く森林に親しんでいただけるよう、
 全国美しい国有林にレクリエーションの森を展開しています。
 この中から、特にみなさまに訪れていただきたい森を
 「日本美しの森 お薦め国有林」として選定しています。

利用する皆様への国有林からのお願い

- ① 動植物の保護にご協力ください。ペットの連れ込みはマナーを守り、周囲の環境に十分配慮してください。
- ② 樹木を触ったり、林産物を無断で採ったりした場合は、法により罰せられることがあります。森林内では、下草の採取等も禁止されています。
- ③ 赤道、広場等の区域への立ち入りはお控えください。広場内でのキャンプは禁止です。それぞれのグループの旗のポールに従ってください。
- ④ 立入制限の表示がある区域には、絶対立ち入りしないでください。
- ⑤ 休息などで立ち止まる場合には、落下するおそれがある樹がないか、落下の危険がないかなど、安全な場所であることを十分に確認してください。
- ⑥ 登山は自己責任が原則です。天候や登山情報を確認し、十分な装備で、登山計画を家族等に伝え入るとともに、登山地域の警察署等に「登山計画書」を提出いたします。併せて、登山口等に設置してある「登山入山者名簿」に必要事項を記載の上、入山してください。
- ⑦ 悪天候のときは入林をお控えください。
- ⑧ 余った食糧を林内に棄てることはしないでください。ゴミ・残飯の持ち帰りにご協力ください。
- ⑨ 煙草は決められた場所でお煙草吸いします。タバコなどの火の始末にご協力ください。
- ⑩ 山道は危険です。歩きながら携帯電話等の使用は危険ですのでお止めください。写真撮影に際しても周囲の状況を確認し、他の利用者の迷惑にならないよう、十分注意してください。
- ⑪ 小型無人航空機(ドローン)を飛行させる場合は、事前に最寄りの森林管理課又は森林管理室にご連絡の上、所定の手続きを行ってください。



アクセス方法

公共交通機関の場合:
 ● 近鉄バス 鹿山温泉停留所から徒歩約80分程度(4.5km)
 ● 北越北バス 新子沢・鹿山・鹿野線(約90分) → 鹿山温泉停留所下車
 ● 公共交通機関の乗り継ぎが不便なため、車のアクセスをお薦めします。

車の場合:
 ● 女満別空港乗換バス(バスから北見市を越南(国道39号、国道50号等)約90分) → 置戸町市街(国道211号等、約30分) → 鹿の子沢風景林駐車場

鹿の子沢風景林

住所: 北海道室蘭市置戸町字栗元

お問い合わせ先:
 林野庁北海道森林管理課 網走中部森林管理署
 電話番号: 0157-52-3011

おけと湖・鹿の子沢レクリエーションの森管理運営協議会
 (置戸町産業振興課)
 電話番号: 0157-52-3313

林野庁 国有林野部 経営企画課
 林野庁レクリエーションの森 ホームページ
<http://www.thp.maff.go.jp/~kokori/shya/kekunin/gori/kabgo/kekunin/kekunin.com>

Recreation Forests of JAPAN

北海道 置戸町

鹿の子沢 風景林

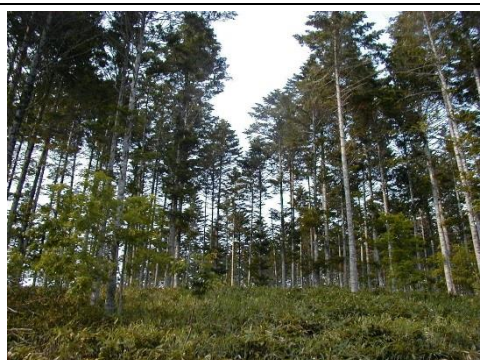
奇岩と滝と森林がつくる絶景

レクリエーションの森
林野庁

木材の安定供給に努めています

育成複層林施業

公益的機能の維持増進を図りつつ資源の循環利用を推進するため、抜き伐りを繰り返しながら、最終的には2段以上の樹冠構成を持った森林へ誘導していくことを目指しています。



○抜き切りを実施したトドマツ人工林

森林整備と木材の安定供給

再生可能な資源である木材を循環的に利用するため、自然条件等を勘案しながら伐採と植林を繰り返して、木材を安定的に供給するよう努めています。

また、伐採した木材の一部は、公募に応じた製材工場等と協定を締結し、計画的に木材を販売することで国産材の利用拡大を図る「安定供給システム販売」を実施しています。



○列状間伐を実施したトドマツ人工林



○木材搬出に利用される林道



○フォワーダによる木材の搬出



○有効利用される間伐材

流域を単位に**民有林行政と連携した** **森林整備等に努めています**

流域管理の推進

地域における適切な森林整備や林業・林産業の活性化を図るためには、流域を単位として民有林と国有林が協調しながら計画を立て、事業を進めることが重要です。

このため、民有林行政を担当するオホーツク総合振興局や市町と連携して、流域の課題やニーズの的確な把握、森林計画等の策定のための意見調整などに努めています。

森林の現況（網走東部森林計画区のうち網走中部森林管理署管内）

単位：ha・%

市町村	総面積	国有林 (林野庁所管)	道有林	民有林	森林面積計	森林率	森林面積の 国有林率
北見市	142,741	59,303	1,899	33,222	94,436	66	63
置戸町	52,727	31,583	5,115	8,060	44,758	85	71
佐呂間町	40,494	15,063	-	7,683	22,747	56	66
訓子府町	19,095	-	6,035	3,172	9,207	48	-
計	255,057	105,949	13,049	52,137	171,148	67	62

注1) 区域面積は「令和6年北海道統計書」、森林面積は「令和4年度北海道林業統計」による。

注2) 民有林には市町有林を含む。

流域森林・林業活性化協議会の取組

民有林行政、国有林行政が連携して流域の森林の整備等を進めるために、関係者で「網走東部流域森林・林業活性化協議会」を設けています。

この協議会には網走中部・網走南部森林管理署のほか、オホーツク総合振興局・網走東部流域内の各市町をはじめ多くの関係者が参画し、地域の木材利用の推進等に努めています。

市町村森林整備計画支援への取組

市町村森林整備計画の実行管理や森林所有者等が作成する森林経営計画の策定支援のため市町村森林整備計画実行管理推進チーム等に国有林職員（フォレストラー）が参画し、国有林野事業で携わってきた経験を活かした取組などを通じて技術的支援等を行い、市町村への協力の推進に努めています。

森林認証（SGEC）の取組

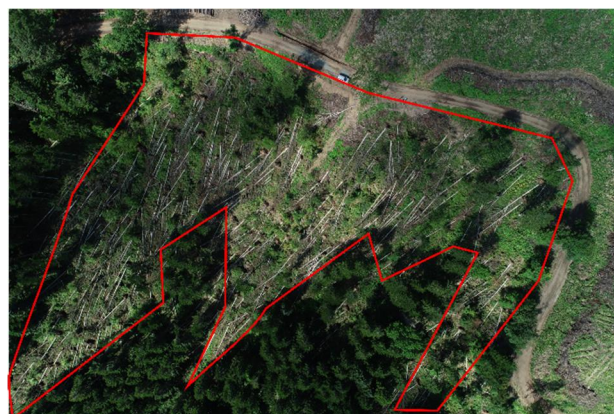
平成25年12月、地域の要請等を踏まえ「緑の循環認証会議（SGEC）森林認証」を当署管内及び網走南部森林管理署の網走東部流域国有林全域で取得しました。これにより網走西部流域国有林と合わせ、オホーツク総合振興局管内の国有林全てが認証林となりました。オホーツク地域では森林全体の約8割が森林認証を取得しており、民有林・国有林が一体となった森林認証による取組を進めています。

地域を支援する取組みを行っています

最近の取組状況

【UAVによる風倒被害地調査支援の実施】

令和5年8月、置戸町役場から、町有林で発生した風倒被害地の状況把握や面積把握をドローンで実施できないかとの支援要請があり、ドローン操作に精通している職員を速やかに現地に派遣、被害地を自動航行アプリで撮影、標高データ（DEM）、オルソ画像を作成、パソコン上で被害面積の計測を実施して、置戸町役場の要請に対応した。



【中間土場の作設】

製品生産の事業実施箇所には、冬期通行止時に閉鎖されるゲートより奥地の箇所がある。そのため市街地から相当な距離があること、事業量によっては、事業終了及び素材販売時期は冬期となり、ゲートは閉鎖されることになる。また、標高も高い山間地なので、降雪日数・積雪量も多く、除雪の時間・回数・経費等が膨大となる。

このことから、物流2024年問題への対応、除雪経費の軽減、奥地に生息している希少動植物への配慮等を考え、令和6年度は置戸市街地に近い国道242号線沿いに、土地所有者の理解を得て、中間土場を作設して対応することにしました。

エゾシカ被害対策

エゾシカが森林に与える影響等を把握するため、職員が樹木被害等の影響調査と越冬地等を把握する痕跡調査を実施しています。この調査結果は研究機関に提供され、捕獲事業等のデータとして有効活用されています。

自治体、地元猟友会と連携した取組みとして、エゾシカ被害・生息調査業務、エゾシカ捕獲連携事業（北見市と協定を締結、林道の除雪、誘引のための餌購入を森林管理署が対応。）を実施しています。

また、北海道オホーツク総合振興局が北見市・佐呂間町の国有林で実施した、エゾシカ捕獲困難地対策事業に、事業実施箇所周辺のエゾシカ調査結果の提供、ワナ設置箇所の提供、林内作業実施時期の調整等を行い、事業が円滑に実行できるよう協力をしています。



令和6年度 主要事業量

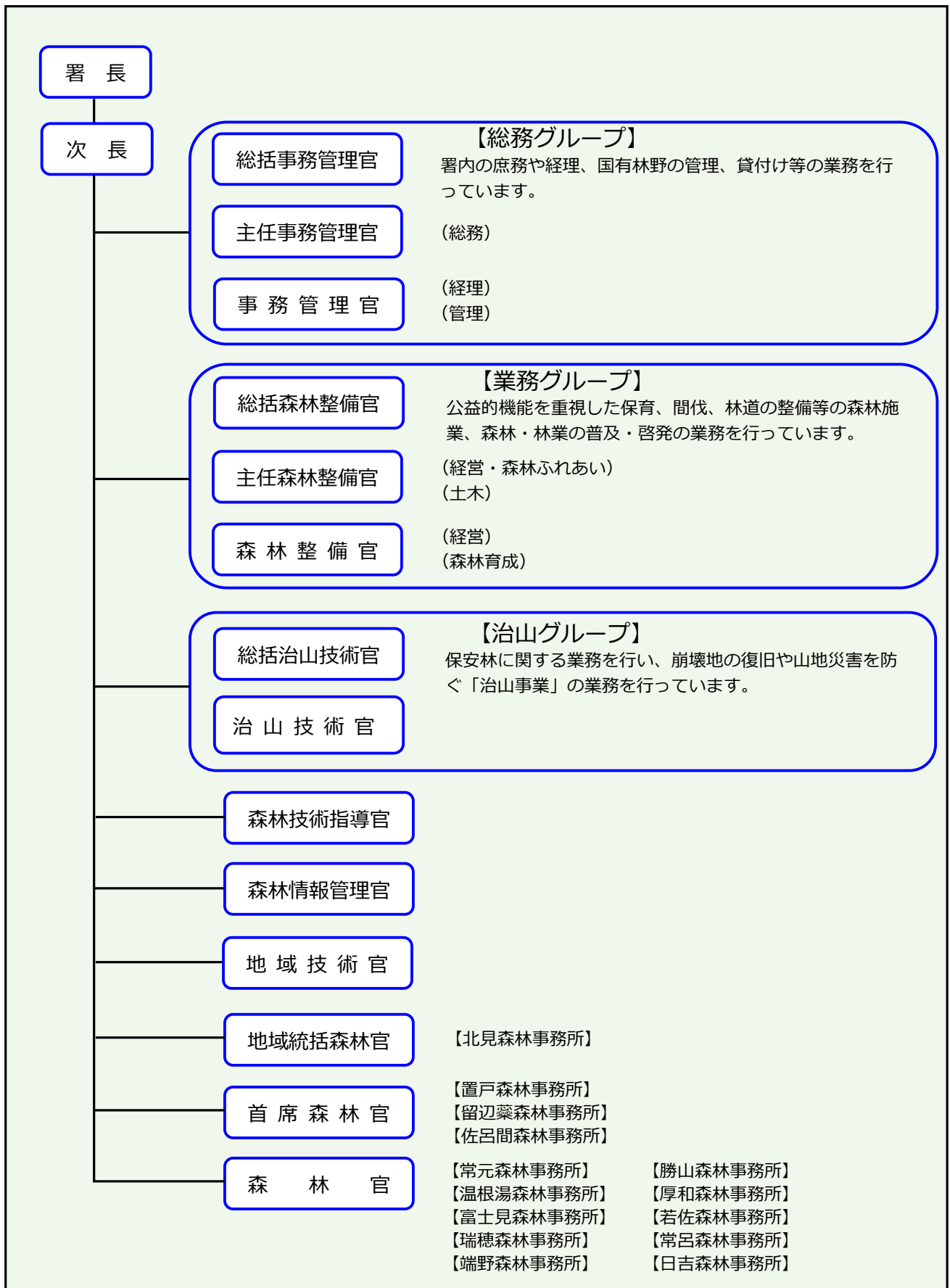
区 分		単位	令和6年度	備考
販売量	立木販売	m3	121,200	
	製品販売	m3	66,000	
造 林	更 新	ha	110.45	
	保 育	ha	212.59	
林 道	新 設	m	1,400	
治山事業		百万円	77	

注1：造林の更新は、新植、改植の植付、天I地拵の合計である。

注2：造林の保育は、下刈、つる切除伐、除伐2類、保育間伐（高齢級含む）の合計である。

注3：造林の更新、保育面積には、治山費による実行分を含む。

組織図



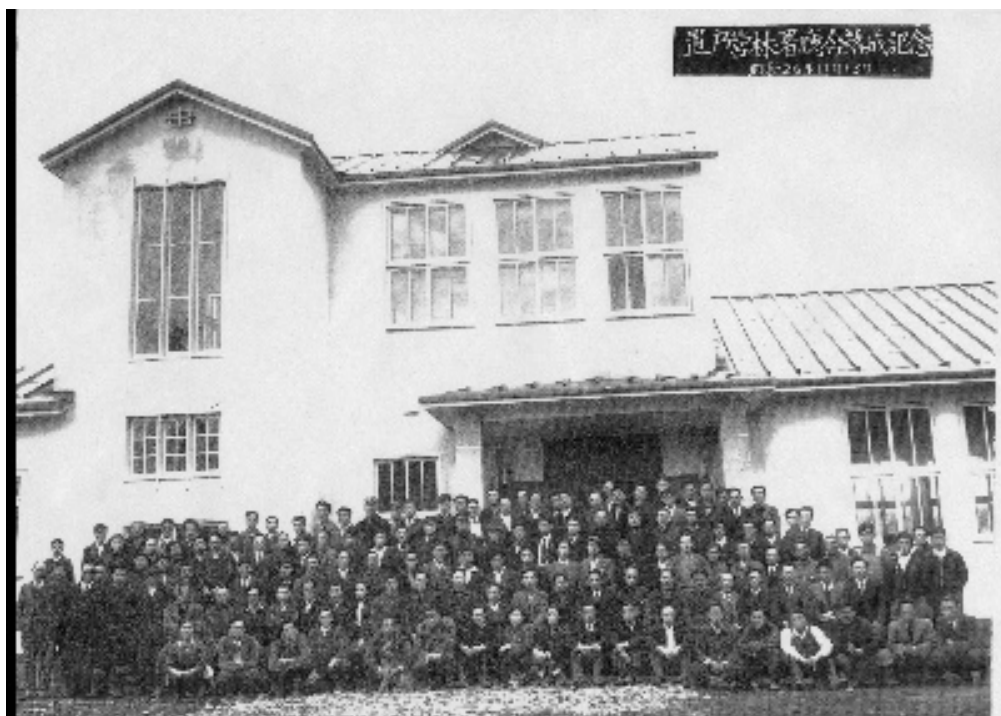
網走中部森林管理署 森林事務所所在地

森林事務所名	所在地等	
置戸 常元 勝山	〒099-1100 常呂郡置戸町字置戸 398-1 TEL 0157-52-3459	
留辺蘂 瑞穂	〒091-0033 北見市留辺蘂町栄町 82-4 TEL 0157-42-2116	
温根湯 厚和 富士見	〒091-0153 北見市留辺蘂町松山 108-2 TEL 0157-45-2707	
若佐 佐呂間	〒093-0502 常呂郡佐呂間町永代町 98-2 TEL 01587-2-3439	
常呂 日吉 北見 端野	〒090-0035 北見市北斗町 3 丁目 11-3 TEL 0157-23-7435	

網走中部森林管理署の沿革

年 月	北見市、常呂郡の 国有林管轄官庁	記 事
明治 41 年	内務省北海道庁	網走営林区署設置（網走町）
大正 8 年	内務省北海道庁	網走営林区署野付牛分署設置（野付牛町）
昭和 3 年	内務省北海道庁	野付牛分署が野付牛営林区署に昇格
昭和 17 年 5 月	内務省北海道庁	留辺蘂営林区署設置（野付牛営林区署から分離）
昭和 17 年	内務省北海道庁	野付牛営林区署を北見営林区署と改称
昭和 22 年 5 月	農林省林野局	北見営林区署を北見営林署に改称
昭和 22 年 5 月	農林省林野局	留辺蘂営林区署を留辺蘂営林署に改称
昭和 22 年 10 月	農林省林野局	置戸営林署設置（北見営林署から分離）
昭和 22 年 10 月	農林省林野局	佐呂間営林署設置（留辺蘂営林署から分離）
昭和 24 年 6 月	農林省林野庁	林野局が林野庁に改組
平成 4 年 3 月	農林水産省林野庁	佐呂間営林署と北見営林署を統合、佐呂間営林署と北見森林経営センターに改組
平成 11 年 3 月	農林水産省林野庁	置戸営林署を網走中部森林管理署と改称
平成 11 年 3 月	農林水産省林野庁	留辺蘂営林署を網走中部森林管理署留辺蘂事務所と改称
平成 11 年 3 月	農林水産省林野庁	佐呂間営林署を網走中部森林管理署佐呂間事務所と改称
平成 13 年 8 月	農林水産省林野庁	網走中部森林管理署留辺蘂事務所を廃止、網走中部森林管理署に統合
平成 16 年 3 月	農林水産省林野庁	網走中部森林管理署佐呂間事務所・北見森林経営センターを廃止、網走中部森林管理署に統合

※昭和 17 年 6 月 10 日、野付牛町が市制施行して北見市と改称



置戸営林署庁舎落成記念
昭和 26 年 11 月 13 日

明治 41 年

網走管林区署

大正 8 年

網走管林区署野付牛分署

昭和 3 年

野付牛管林区署

昭和 17 年 5 月

野付牛管林区署

分離

留辺蘂管林区署

昭和 17 年

北見管林区署

改称

昭和 22 年 5 月

北見管林署

改称

留辺蘂管林署

改称

昭和 22 年 10 月

北見管林署

分離

置戸管林署

留辺蘂管林署

分離

佐呂間管林署

平成 4 年 3 月

北見管林署

分離

留辺蘂管林署

統合

佐呂間管林署

北見森林
経営センター

改称

平成 11 年 3 月

網走中部森林管理署

改称

網走中部森林管理署
留辺蘂事務所

改称

網走中部森林管理署
佐呂間事務所

改称

平成 13 年 8 月

網走中部森林管理署

統合

廃止

平成 16 年 3 月

廃止

網走中部森林管理署

統合

統合

廃止



表紙写真

【清流と森林鉄道の遺構】

常呂川の上流域に、複数のコンクリート塊が直立している場所があります。

よく見ると鉄道の橋脚や橋台で、置戸森林鉄道の遺構です。

昭和24年の北見営林局統計書（昭和25年12月刊行）によると、網走中部森林管理署管内で森林鉄道・森林軌道があったのは、留辺蘂、置戸、北見の3営林署。留辺蘂と置戸の森林鉄道は、内務省北海道庁国有林で初の森林鉄道で、国鉄の留辺蘂駅・置戸駅に隣接した貯木場を起点に、温根湯・勝山までを幹線とし大正10年完成。

その後、無加川・常呂川に沿うように幹線を延長、沢ごとに支線が張り巡らされていきます。

完成当時には、アメリカ製の小さな蒸気機関車が、それぞれ3両配備され丸太を積んだ運材貨車を牽引していました。

その後国産の蒸気機関車が増備され、木材輸送に活躍します。

昭和30年には、ディーゼル機関車が登場しますが、留辺蘂の森林鉄道は昭和35年、置戸の森林鉄道は昭和37年に廃止され、木材輸送はトラックの時代になります。

もう1箇所、北見営林署にあった森林軌道は、1,541mと延長距離が短く、民地通過分の延長と書かれています。

これは、森林内の軌道ではなく、常呂川の河口近くにあった網羽から、丸太を陸揚げし、トロッコに積載し馬で牽引、木工場や駅土場に運ぶための軌道だったようです。

常呂市街地は道路沿いに軌道が敷設されていて、路面電車の併用軌道のようになっていたと思われます。この軌道は昭和24年度に廃止されています。



【Baldwin 製蒸気機関車が運材貨車を牽引】

あば
※網羽

流送した丸太を川を堰き止め陸揚げする場所。

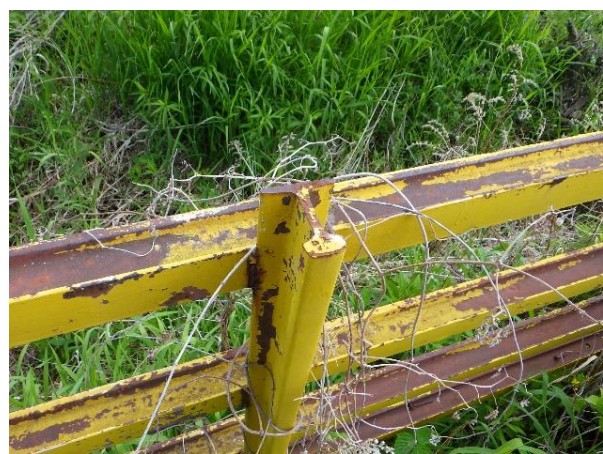
森林鉄道が廃止され60年以上経ちます。

廃線跡のほとんどの箇所は、公道や林道といった道路や農地に変貌しているのですが、山中には表紙写真のような橋脚、橋台、路盤等を確認できます。

廃止時に回収したレールは、鉄材として活用されており、営林署が設置した鉄柵等をよく見ると森林鉄道のレールが使用されています。

置戸町内には森林鉄道車両の修理工場だった木造建築物が残っているほか、置戸町郷土資料館には、林業・森林鉄道に関する資料が展示されています。

また、使用されていた Baldwin 製蒸気機関車の留辺蘂営林署で使用していた2号機は、秋田県秋田市の仁別森林博物館に。置戸営林署で使用していた3号機は、群馬県沼田市の林野庁森林技術総合研修所林業機械化センターに、それぞれ保存されています。



【参考文献】

北見市立常呂図書館データベース

綴られた常呂のできごと

・明治末期から大正・昭和初期 太茶苗(福山)での造材作業

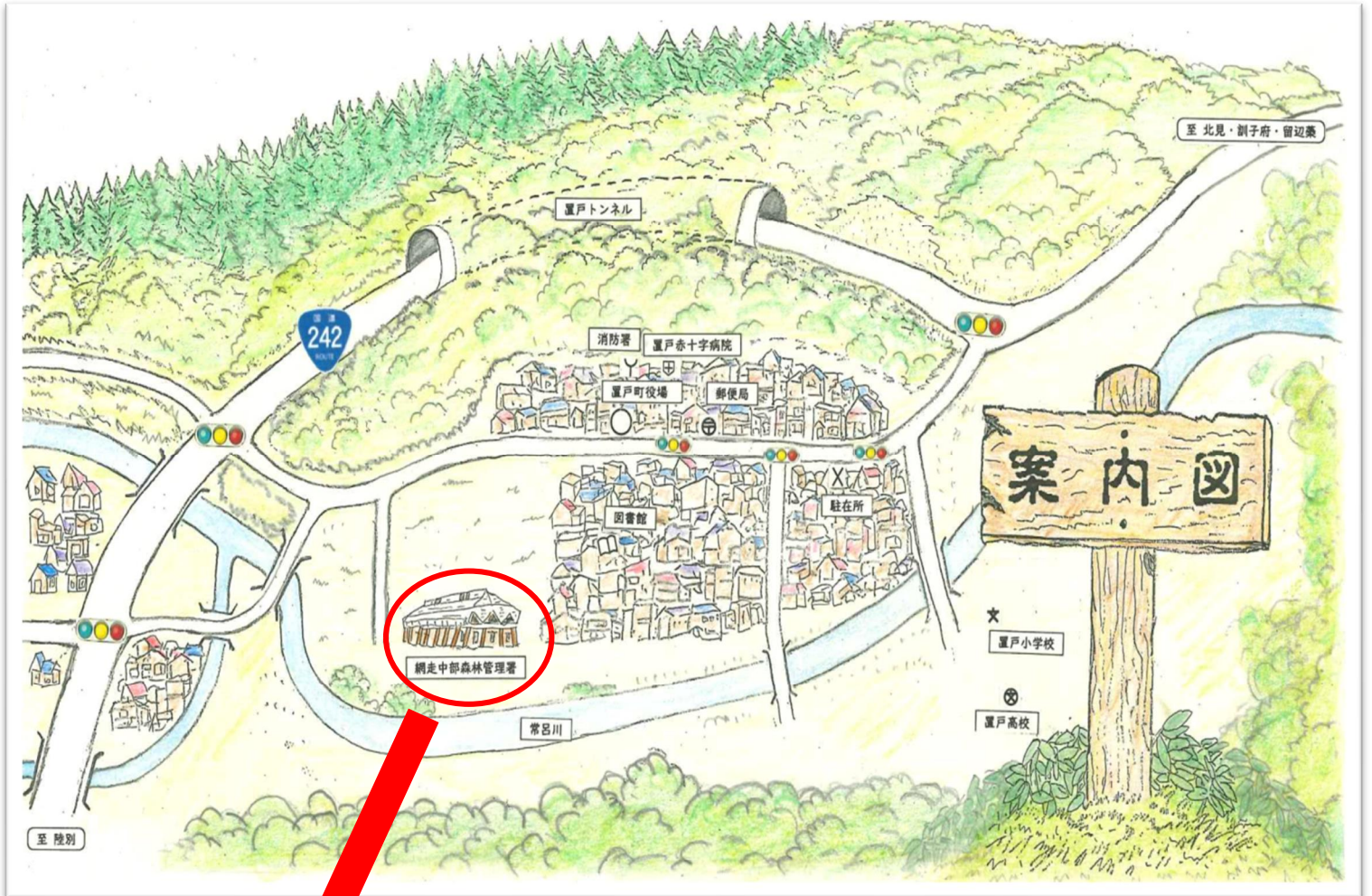
・昭和17年から19年、福山での造材作業

【協力】

置戸町教育委員会

社会教育課 置戸町郷土資料館

網走中部森林管理署案内図



網走中部森林管理署

〒099-1100

北海道常呂郡置戸町字置戸 398-99

TEL:0157-52-3011

(IP電話 050-3160-5770)